



今年度は、諏訪市役所 5 階で開催します ～チャレンジショップ 2026～



各校では、充実した「相手意識に立つものづくり科」の授業が展開されています。今年度も、多くの皆様(市民の皆様)の願いや視点に立って製作したものを販売する活動「チャレンジショップ」を開催します。

1 日時：12月19日(土) 10:00～12:00

2 会場：諏訪市役所 5 階大会議室、501・502 会議室

各学校が販売するブースの配置や駐車場などの詳細につきましては、後日、地域にチラシを配布しますので、そちらもぜひご覧ください。

昨年度までに増して、児童生徒にとって充実した学びの場となるよう、地域の皆様のご協力、お力添えをよろしくお願いいたします。



昨年度の様子より

十一面観音

ICT の活用により、授業の風景が変わる



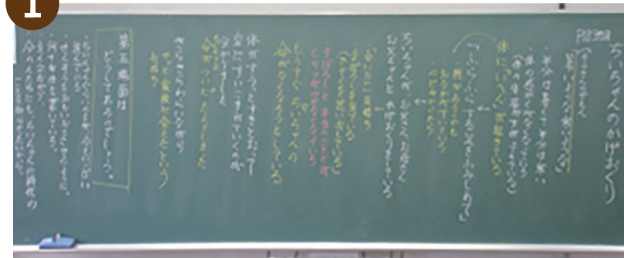
「ICT の活用」という言葉を聞いたことはありますか？ ICT とは、「インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー(情報通信技術)」の略称で、パソコンやソフトウェアなどの IT 技術を使って、人とのつながりや情報共有を組み込んだ技術や仕組み全体を活用するという意味です。

近年学校では、国の GIGA スクール構想*1 の下で、タブレットが一人一台配付され、教室には、通常の黒板の他に電子黒板が導入されました。また、コロナ禍を機にオンライン授業も行われるようになってきています。これにより、教室の風景が大きく変わりつつあります。

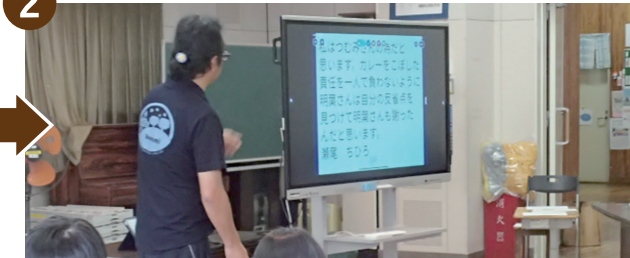
*1 GIGA スクール構想：児童生徒に一人一台端末とネットワークを整備し、個別最適な学びと協働的な学びを実現するための政策

では、具体的にどう変わってきているのでしょうか。一例を紹介します。次の写真をご覧ください。

1



2



3



4



子どもが作成した図形が電子黒板に、一斉に映ります

①は、学校に通ったことがある方なら見覚えのある黒板の様子ではないでしょうか。各自がどんな意見をもっているのかを挙手や指名によって教師が聞き、チョークで黒板に手書きして、意見をまとめていきます。

一方、タブレットや電子黒板が導入された現在は、これらを活用した授業が多く行われるようになってきました。タブレットには、「ロイロノート」というソフトが入っています。このソフトを使うと、子どもがタブレットに書き込んだ自分の考えや文章がボタン一つで教師のタブレットに送られ、そこから、②のように電子黒板に映すことができます。

さらに言葉だけでなく、子どもたちが③のように図を作成したものも④のように全員の図を一斉に電子黒板に映し出すこともできます。

これにより子どもたちは、電子黒板を見て友だちがどんな意見をもっているのか、どんな図形を描いたのか知ることができます。その上、自分のタブレットからも友だちの内容を閲覧できるので、それを見て自分の文章や図を練り直したり、クラス内で意見交換をしたりすることもできます。

この一つの場面を切り取っても、教室の風景が大きく変わりつつあることを感じられるのではないのでしょうか。各学校では、毎年授業を地域に公開する日が設定されています。皆さんも、学校で授業参観する機会がありましたら、ぜひ ICT を活用した授業の様子を参観してみてください。

ともに手を携えて創る 諏訪市の学校教育

未来創造

2026/10/1

あい・アウン だより

まなび えがお じりつ

編集発行：諏訪市教育委員会 教育総務課

地域とつながり、地域のために活動する子どもたち



育てた
ニッコウキスゲの苗



小和田牧野農業協同組合の指導の下、育ててきた
ニッコウキスゲの苗を霧ヶ峰蛙原で植栽する生徒達

中学校に広がる ボランティアカード

令和6年度に諏訪中では、市社協と連携しながらボランティア活動の内容や感想を記録する「ボランティアカード(わたげ帳)」を作成し、全校に活動への参加を呼びかけました。

今年度、新たに上諏訪中では「ひだまり帳」、諏訪南中では「星のかけら帳」と名付けた記録カードを導入しました。

(諏訪西中は、来年度から導入予定)

このカードを活用することで今後ますます地域とのつながりを深め地域貢献の取り組みが充実していくことが期待されます。



各校のボランティアカード

市社協の柴田さんの話

カードを活用する学校が広がり嬉しいです。私たちが主催するボランティア体験「サマーチャレンジ」にも意欲的に参加しています。こうした活動への参加を通して、地域を愛し住みよい社会づくりの担い手が育つことを期待しています。

生徒会役員の話

身近にある小さな活動でよいので気軽に取り組むことで、地域とつながり、地域が温かくなったり、役に立てたという達成感を感じられたりするので、積極的に取り組んでいきたい。



区民祭りの手伝いを
する生徒達



子ども食堂のお手伝いを
する生徒達



諏訪湖畔の清掃活動に
参加する生徒達



園児の自由遊びを支援
する生徒



通学路のごみを拾う生徒達



高齢者に贈る給手紙を
作成する生徒達

諏訪市の教育大綱

誰もが輝き 誰もが幸せ
新たな時代を切り拓き つながり続ける



学びの和

諏訪市では、これからの時代を担う子どもたちの学びが更に深まり、自分らしさを発揮しながら楽しい学校生活が送れるよう、次の3つのプラン、3つの重点活動を掲げて取り組んでいます。

- ☑ 3つのプラン 1 認めあいプラン 2 支えあいプラン 3 学びあいプラン
- ☑ 3つの重点活動 1 読書活動・読書会活動 2 人権・平和教育 3 地域と一体になった防災教育・安全教育



「諏訪の魅力をたくさん見つけたい！」 「子どもゆめプロジェクト」第4期の活動が、スタートしました！

令和8年度の活動が、去る5月23日（土）のすわっチャオでのキックオフイベントを皮切りにスタートしました。今年度は、小学生8名、中学生4名の計12名のメンバーと、高校生、公立諏訪東京理科大学（学生サークル“チノリカ”）の学生に加え、長野県福祉大学の学生の皆さんが、メンバーと伴走するサポーターとして参加しています。



自然保護の看板の取付も体験

前半のフィールドワークを通して、メンバーからは、「人間がかかわった地球温暖化は、人間が解決しないと

いけない問題だと気づいた。」「湿原にも、地球温暖化の影響があると知り、「どうにかしないと」と思いました。」等々の気づきが出されてきています。

全体テーマは、本年度も「私たちがつくる 諏訪の未来」として、SDGsの視点も持ちながら、11月28日（土）に行われる、市長・教育長への提言に向けて、全16回の活動プログラムで探究活動を進めてきています。



楽しく仲を深めながら、諏訪のこと学べたらいいなあ

子どもの「今・未来」をともに考える

岡谷・下諏訪・諏訪 学びの支援関係者懇談会 6月4日

3市町の学校、フリースクール・居場所、教育委員会等の学びを支援する関係者が、「不登校児童生徒の支援に関わりどのような連携ができそうか」というテーマで懇談会を開催しました。お互いが抱える困り感や苦労を共感し合いながら、相互理解、情報共有を大切にしていけることが確認されました。

相手の立場に立って考える「対話」が信頼関係の土台になるため、「顔の見える関係」を大事にして、連携を進めていきます。

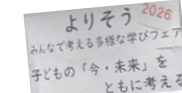


参加者の声

「子どもに関わる支援者それぞれの強みを生かしながら、今の目の前の子どもにあった関わりや支援をして子どもの育ちを共有していきたい。」

みんなで考える多様な学びフェア 「よりそう 2026」 8月3日

諏訪地区学びの支援ネットワーク主催による「よりそう 2026」が駅前交流テラスすわっチャオで開催されました。6市町村の学校関係者、フリースクール・居場所等関係者、教育委員会担当者など、およそ170人が集まりました。設置されたフリースクール・居場所の14の紹介ブースには、夏休みを利用して多くの学校関係者が訪れ、児童・生徒の多様な学びの場について理解を深めました。



参加者の声

受け持ちの子がいくつかのフリースクールを利用しています。今回具体的な取組を知ったのでもっと関わっていききたい。

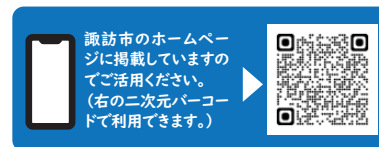


学びの支援サポートブック 『よりそう』～子どもの「今」を支えるアプローチ～

お子さんから、学校へ行きたくないと言われた時、どうしたらよいか、どこに相談したらよいか、困ってしまったことはありませんか？

この冊子は、その子が自分らしくいられることを願って諏訪地区のみんなが知恵を出し合い、少しでも保護者のみなさまやお子さんの不安な気持ちを和らげることができたらと作成したものです。

少しでもみなさんのお役に立ち、子どもが安心して生活できることを願っています。



ラーケーション

～平日、家族と一緒に「自分らしく、楽しく豊かな体験」をプロデュース!!～

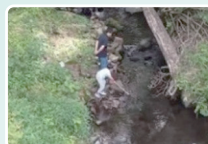
「学校は大好き。でも、もっと違う世界も見てみたい！」そんな子どもたちの好奇心と、ご家族の想いをつなぐ新しい制度、それがラーケーション®です。各学校で自由な学びの輪が広がっています。（試行中）

※子どもの「Learning(学び)」と保護者の「Vacation(休暇)」を組み合わせた言葉

case 1

那須高原で、大好きな水の生き物の世界にどっぷり身を置いた。

「川の上流、中流、下流によって魚の特徴が違い、それぞれの場所で生きるための工夫がわかった。自然をすごく近くに感じた。」(児童)



川では様々な生き物に出会った(写真上)
めずらしい生き物を写真にとっておこう(写真下)

case 2

佐渡島に魅せられ、タブレットや図鑑などで調査活動したことを、実際に確かめるために家族で訪れた。

「学びと遊び・楽しみが繋がると、子どもの表情がこれほど変わるのだと実感でき、親にとっても貴重な体験となった。」(保護者)

佐渡金山の想像以上の大きさに驚嘆(写真上)
佐渡の海ではアジがつかれるかな(写真下)



case 3

夏休み一研究の事前学習として、市内の店で調べ学習をし、ケーキ作りに使われているたまごについて教えてもらった。

case 4

市内の保育園に子育てボランティアとして参加し、子どもたちと触れ合った。

case 5

祖父母の作っている水田に、家族と一緒に手伝いに行き、田植えの体験をした。

などなど様々な体験があります。試行期間は今年度末まで。引き続き来年度からの本格実施に向けて課題を整理していきます。



知っておきたい「ラーケーション」のルール

- ①「欠席」にはなりません。 事前に学校へ計画を届け出れば、年間3日までとれます。
- ②企画は「親子」が主役 家族で話し合って計画書を書く時間から、学びはもう始まっています。
- ③身近なところにも学びの種 遠くへ行く必要はありません。楽しみ方は無限大です。